

## 総合商社での大型プロジェクトの取組み

鳥山 悟 氏

- ・勝山高校に入学して思ったことは、先生方が教育熱心で、個性や魅力に溢れていて多くの刺激を受けた。
- ・担任の先生はとりわけ熱心で、一人一人に向き合い指導される方で、授業も魅力的であったし、クラス全員から熱い信頼を得ていた。
- ・高校1年生の6月に膝を骨折し、入院と通院で4か月半ほどかかったため、授業に大きなハンディを背負ってしまった。
- ・級友に聞くなりして遅れを取り戻したが、数Iは全く分からなく、先生の授業を熱心に受けたが、高校2年生の終わりになって追いつくことができた。
- ・高校1年生の末に理系と文系を選択することになったが、この年齢では将来の職業に対するイメージが湧かず、選択が難しかった。
- ・得意科目が地理、歴史、数学だったし、いつか世界の国々へ行きたいという思いがあったので、文系を選んだ方が良いかと考えたが、当時は理系が人気だったことや数学も得意だったこともあり悩んだ末、理系を選択した。
- ・当時は10クラスあって2クラスが進学クラスだった。理系のクラスは男子が40人、女子が5人くらいだった。
- ・結果として、この選択は良かったと思っている。
- ・受験の時になって受験先の「学科」を決めなくてはならないが、「学科」を選ぶ事は将来の仕事・職業につながり、決めるのは難しかった。  
結局「建築科」を選択したが、受験に失敗。
- ・浪人となり予備校に通ったが、理系クラスを選択した。しかし、模試等の結果から受験前になって理系での東大合格はもう少し頑張らないとのアドバイスあり、文系受験を決断。
- ・経済学部と法学部を私大から東大まで順番に受験していったが、全て合格することができた。
- ・高校時代にもっとやっておけば良かったことは、新聞やニュース等で世の中の動向に目を向け、見識を広げ将来どのような仕事に就きたいかをイメージすること。
- ・また、勉強はもちろん大切だが、ONとOFFを切り替えるためにもクラブ活動等好きな事に打ち込むことも大切。
- ・私は骨折のこともあったため高校時代はクラブ部活動ができなかったが、東大に入って体育会系の剣道部に入部した。
- ・部活に入ると1年生から4年生まで、様々な学部の人達や先輩達がいる、様々な話が聞けてとても参考になった。

- ・また、東大は学科は3年生になって決めるので、剣道部でたくさんの人に出会ったことが進路の決定に役に立った。
- ・さらに東大の良いところは、専門課程（3・4年生）へ上がる際、他の学部へ編入することができるので、周りの人で他の学部へ編入する人もいた。
- ・大学3年生くらいから就職について考えるのだが、当時は「働く」ということのイメージが湧かなかった。
- ・銀行や損保会社、国家公務員（旧通産省）なども考えたが興味が湧かなかった。
- ・高校時代、地理や世界史が好きだった事、又ニュースや新聞などの情報から海外と関わりのある仕事や貿易関係の仕事に就きたいとは思っていた。
- ・そんなときに住友商事に就職した先輩から声をかけられた。この先輩は最も尊敬していた先輩であった。
- ・総合商社とは海外との貿易などの仕事で、業種にとらわれず垣根を越えたあらゆる事業をやっている、ダイナミックで面白そうだと感じた。
- ・住友商事の面接を受け、私のイメージと事業内容がフィットしたため、他の会社はほとんど受けず、住友商事に入社することに決めた。
- ・同期入社は200人ほどで、文系ばかりかと思っていたが、理系の人も2〜3割いた。逆にメーカーでも理系ばかりでなく、文系の人が2〜3割入社している。
- ・総合商社の事業内容は多岐に渡る。例えば、石油掘削用の鋼管は日本メーカーの品質が世界No.1で、全世界に輸出している。この鋼管は浅いところで2〜3千メートル、深いところで5千メートル以上掘削するところで使用されるので、強度など品質が重要。
- ・一方で、航空機はアメリカのボーイングなど海外メーカーから仕入れて、これらを日本の航空会社などに輸入して納入する仕事もしている。
- ・また、住友商事はボリビアのサンクリストバル鉱山の権益を所有している。この鉱山は世界有数の銀・亜鉛・鉛の産出量を誇る。鉱山開発だけでなく、その地域の道路・病院・学校なども建設し、その地域の生活インフラ面でも貢献している。
- ・さらにインドネシア・ジャワ島の火力発電所の建設・運営、ITビジネスなど本当に多岐に亘る仕事に住友商事は関わっている。
- ・事業所も国内22拠点（都市）、海外66カ国・113拠点（都市）、合計135拠点（都市）ある。
- ・従業員も5,300人、世界中の子会社等も併せると66,000人にも上る。
- ・自分自身の職歴としては、入社した当初から40代後半までは鉄鋼部門の営業に携わった。40代後半からは、IT関連の仕事に携わった。
- ・日本の鉄鋼メーカーは品質・技術面で世界トップクラス。新日鉄（旧官営八幡製鉄所が発祥）と住友金属が合併した日本製鉄や、日本鋼管と川崎製鉄が合併したJFEスチールなどがある。

- ・鉄鋼は建築物（建物や橋梁）から自動車、家電など生活に関わるありとあらゆる物に使用されている。
- ・鉄鋼部門時代に携わった仕事は、電力会社向けのビジネスで、東京電力の柏崎・刈羽原子力発電所や、富津火力発電所の建設である。
- ・柏崎・刈羽原発では約2年に渡る営業活動の末、数十億円の受注を得た。
- ・富津では従来の火力発電の主流である石炭ではなく、環境にやさしい液化天然ガス（LNG）を利用した火力発電所の建設であり、半地下式の巨大構造物を建設した。こちらも数十億円の受注する事ができた。
- ・この時期に仕事のやり方や進め方、ビジネスマナーなどを先輩・上司からたたき込まれ、社会人としての基礎ができたと思うし、若くして大型プロジェクトに参画し、成果を挙げたことは大きな自信となった。
- ・1997年から1998年にかけて全社横断プロジェクトとして、経営改革・業務改革プロジェクトチームを発足させ、「住友商事が今後更に成長・発展するには、どういった改革を行うべきか」という命題に全社各部署からメンバーが集められた。
- ・私もそのプロジェクトに参画し、「会社の経営基盤である社内システムを全面的に再構築する必要性」というテーマを提案した。
- ・このテーマについて社長から指示があり、具体的に企画・立案・実行するための組織の責任者となった。
- ・それを踏まえ、全社の経営基盤である「全社システムの再構築プロジェクト」のリーダーとして、5年間に亘るプロジェクトを取り進め、予定通り完遂する事ができた。
- ・又、「全世界（海外拠点）のシステム再構築プロジェクト」のリーダーとして、3年間に亘るプロジェクトをやり遂げた。両方のプロジェクトを含めると数百億円の規模。いずれも難しい仕事だったが、やりがいのある仕事で、プロジェクト完成後は達成した喜びが大きかった。
- ・40代後半からは、IT関連の仕事で海外出張の機会も多かった。  
高校時代、地理や世界史で習った海外へ行ってみたいと漠然と思っていたが、実際に仕事を通して世界各地へ出張し、様々な人たちと仕事をした。
- ・高校時代の夢が本当に実現でき、充実した会社生活を送る事ができた。
- ・仕事をする上で大切にしていたことは、「やり遂げる事（コミットメント）」、「情熱・熱意」、「ビジョンを持つ事」、「人材育成」。
- ・最後に、就職を考える際にはその会社にどういった人が働いていて、どういった風土かということ調べる事が重要。
- ・皆さん、「志を高く持って」、勉強やクラブ活動に励んでいただきたい。